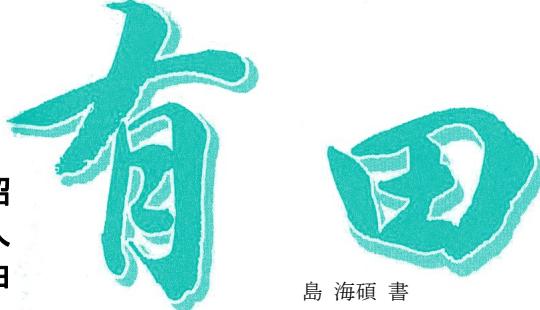


No. 3134

2025-2026年度

会長 木本 隆昭
幹事 児嶋 正人
クラブ 広報小委員長 福田 一由



～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



よいことの
ために
手を取りあおう

本日のプログラム

令和7年12月4日 第3135回

- 外部卓話：任 泰然 氏（米山学友）
「ロータリーの支えで歩んだ道」
- ソング：「君が代」「奉仕の理想」

前回の報告（第3134回例会）

開催日 令和7年11月20日(木)

点鐘 [木本会長]

ゲストの紹介 [酒井親睦活動小委員長]

ゲスト：北口 雄一氏（一般社団法人 Kishu Social Club）

ニコニコ箱の報告 [川口SAA]

木本君：一般社団法人 Kishu Social Club 代表 北口 雄一様、ようこそ有田ロータリークラブへ。本日の卓話、宜しくお願ひ致します。

児嶋君：北口雄一様、ようこそ有田ロータリークラブへ。本日の卓話、よろしくお願ひ致します。

石垣君：北口雄一様、本日卓話よろしくお願ひします。

岩橋君：北口雄一氏、卓話よろしくお願ひします。

橋爪(正)君：北口雄一様、ようこそ有田ロータリークラブへお越し下さいました。本日の卓話よろしくお願ひします。

中村君：北口様、ようこそ有田RCにお越し下さいました。我々の奉仕活動に御協力いただき誠にありがとうございます。

宮井君：北口雄一様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

松村君：北口雄一様、お話楽しみにしています。

上野山(栄)君：北口さん、やっと有田RCへ来てくれたんですね。チームも順調に運営出来ていてうれしく思っています。本日よろしくお願ひします。

橋爪(誠)君：北口様、ようこそ有田ロータリークラブへ。本日の卓話楽しみです。よろしくお願ひ致します。

井上君：北口雄一様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

菅原君：北口様、ようこそ有田ロータリークラブへ。本日の

2025-2026年度クラブ方針

「例会に出席しよう
みんなに会おう」



次回のお知らせ

令和7年12月11日 第3136回

- 年次総会

- ソング：「四つのテスト」

卓話、宜しくお願ひ致します。

福原君：FC Kishu 北口監督、本日卓話よろしくお願ひします。

嶋田君：北口様、ようこそ有田ロータリークラブへ。卓話よろしくお願ひします。

福田君：北口雄一様、本日の卓話お願ひ致します。

酒井君：北口様、本日よろしくお願ひします。卓話楽しみにしております。

川口君：一般社団法人 Kishu Social Club 代表 北口雄一様、ようこそ有田RCへ。本日の卓話、宜しくお願ひ致します。

出席報告

[クラブ管理運営委員会 橋爪(誠)委員長]

本日の出席者18名／24名

(うち出席規定免除者6名／7名)

会長の時間

[木本会長]

皆さん、こんにちは。11月15・16日はRI2640地区の地区大会でしたので、本日は、地区大会についてお話しします。

最初に16日の表彰式で、昨年度開催した「未来へキックオフ」が社会奉仕奨励賞を受賞しました。本日の北口様の卓話の直前での受賞に、1月25日開催予定の「未来へキックオフ」サッカー教室開催に向けて力強い追い風を感じています。

さて、順をおって説明しますと、11月15日の本会議に有田RCからは、地区幹事の橋爪誠治さん、RIJ日本支部地区代表委員の上野山栄作さん、児嶋幹事、私木本の4名が出席し、登録者数は230名でした。

本会議は13時開会でRI会長代理の中川基成氏の入場



のあと、開会宣言・開会点鐘・国家斎唱・「奉仕の理想」斎唱・開会挨拶・RI会長代理紹介・来賓紹介・パストガバナー、ガバナーエレクト紹介・ガバナー挨拶が行われました。

13時30分からは、RI会長代理 中川基成氏の講演「ロータリーの魅力と行動計画」が開かれました。14時40分に閉会宣言がありました。15時30分からは地区選挙人会議が開催され、有田RCからは私が出席しました。また、地区幹事として橋爪誠治さんもご臨席されていました。RIの定款変更についての説明がありましたが、内容がむずかしく、私が理解したのは地区大会の開催を「年1回開催しなければならない」から「することができる」という文言に変わり、開催が義務ではなくなりたったということぐらいでした。しかしながら、次年度2640地区の地区大会は、岡本会長エレクトが2027年2月26・27日に和歌山城ホールでの開催予定を発表されました。また、RIの定款変更等の説明は、改めて時間をとて地区幹事の橋爪誠治様や情報研修委員長の井上さんに、会員卓話にて皆様に説明をしていただきます。

幹事報告

〔児嶋幹事〕

- 1.国際ロータリー第2640地区
地区大会、参加の御礼文が届いています。回覧
- 2.公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
ハイライトよねやまが届いています。回覧
- 3.紀州有田商工会議所から新会頭・副会頭・専務就任の挨拶状が届いています。回覧
- 4.例会変更の案内 後方掲示



ロータリー友誌の紹介

〔クラブ広報小委員会 北畠委員(代読 福田委員長)〕
【横組】

P3 RI会長メッセージ 感謝の気持ちを寄付で伝えよう



11月はロータリー財団月間です。ポリオ根絶のため、ロータリーは今まで26億ドル以上の資金を投入しています。会長はロータリー財団にとって大切なのは、私たちが単独で何かを達成できるかではなく、協力して何かを達成できるかであると話されています。

P12 国際ロータリー世界本部の様子が掲載されています。

P20 ゲイツ財団はロータリーと提携をしています。ポリオ根絶を始め今後の活動が書かれています。

【縦組】

P2 中竹竜二 早稲田大学ラグビー部元監督の記事が掲載されています。
「最も強い者が生き残るのではなく、変化に最も適応した者が生き残る」中竹氏が伝えたいテーマです。トップダウンではなく



フォロワーシップでのリーダー像をお話しください。

卓話



一般社団法人

Kishu Social Club
代表
北口 雄一 氏

「紀州からJリーグへ

～スポーツを有田の産業に～」

FC KISHUは、有田市を本拠地にJリーグ参入をめざしているサッカークラブです。

「サッカーを軸にした紀州創生」を理念に掲げ、Jリーグ参入によって①スポーツツーリズムの促進②子供たちが熱狂できる夢づくり③県民のプライドを表現する場所づくりの3つを目的に、2024年に運営法人である一般社団法人KISHU SOCIAL CLUBを創設しました。

2024年のU-15(中学生)チームの設立に始まり、2025年は本格的にJリーグを志し、社会人チームを結成。和歌山県社会人リーグ3部を無敗優勝し、2026年は2部を戦います。

また、総合型スポーツクラブとしての計画もあり、ダンスクラブとアスレチッククラブ(陸上競技)を設立予定です。サッカー界はピラミッド式で、私たちが来年プレーする県2部の上に、県1部・関西2部・関西1部・JFL(アマチュア全国リーグ)が上位カテゴリーとしてあり、さらにその上にJリーグが存在しています。

まだまだ生まれたてのクラブではありますが、元JリーガーやJFL・関西リーグなどの上位リーグの経験者が在籍しており、有田市出身のサッカー日本代表北野颯太選手の兄である北野竣介も在籍するなど、すでに県内では注目度の高いチームとなっています。

Jリーグには現在全国各地に60クラブありますが、和歌山県にはまだ存在していません。Jリーグの下位カテゴリーであるJFLにも参入できていない、全国の3県のうちのひとつです。また、プロスポーツという括りで見た際にには、他の地域にはバスケットのプロチームがあり、全国でプロスポーツクラブがひとつもないのは和歌山県のみです。

スポーツは、体育を発端とする価値観から、競技を「する人」だけのものとして捉えられてきましたが現在は少しづつその価値観に変化が起き始めています。

2016年に政府が掲げた日本再興戦略のひとつにスポーツ産業の発展が挙げられており、その中で、「観る人」の視点に立ったスタジアム・アリーナ改革がスポーツ庁を中心に進められております。全国的に商業施設等を併設したスタジアム・アリーナの建設ラッシュが進み、欧米・中南米のようにスポーツをする・観る・支える人が一体となった新しい文化が日本にも生まれています。

Jリーグが生まれて33年になりますが、実はJリーグ創設期に和歌山にもJリーグのチームが誕生する可能性がありました。住友金属のサッカー部が和歌山を本拠地とするクラブをつくろうとしましたが、頓挫。茨城県に本拠地を置くことになりました。そのクラブが、現在の鹿島アントラーズです。2022年に周辺地域にもたらした経済波及効果は365億円と言われています。サッカーを軸とした地域創生にはこれだけの可能性を秘めているのです。

Jリーグに参入するためには、年間で行われるリーグを戦い、一段ずつ昇格を重ねていくしかありません。私たちは今から最短でも6年かかる計画ですが、現在44社の企業・団体様にご支援をいただいており、着実に成長しております。

ですが、問題がもうひとつ。Jリーグに参入できたとしても、和歌山にはまだJリーグの基準を満たすスタジアムがありません。

さらに、他競技スポーツ施設や商業・アミューズメント施設を併設したスタジアムがなければ、ニーズが多様な日本社会で経済効果を増大させることは難しい状況です。FC KISHUでは、クラブ内で「スタジアムシティ・プロジェクト」という計画をつくり、ENEOS製油所様のタンクヤード跡地に複合施設を建設する夢を掲げています。

和歌山県北中部という、県内外の方が集まりやすい立地を活かした経済活性化に加え、子供達が地元で夢を叶えられる環境をつくってまいります。それによって改善したい地域課題は、若年層の県外流出とUターン就職の割合です。

競技人口の1位であるサッカーで、向上心・リーダーシップが高い選手ほど、和歌山で夢を叶えられる場所がなく、県外のチームや学校に出ていってしまいます。早期に県外に出た選手たちは、地元に友人もおらず、愛郷心に目覚める前に旅立っているため、Uターンも期待が薄くなってしまいます。競技人口の多いサッカーによって人間力を高めた人材に戻ってきてもらえない環境は、地域の損失と考えています。これらは、和歌山よりも人口・GDPの少ない地域でも実現させられているのですから、和歌山にできないはずはありません。

特に、甲子園を4度も制し、熱狂をつくり出したこの有田には、底知れないパワーがある。地域を動かす、最も力強いエネルギーは人間の意志だと信じています。スポーツを新たな産業とし、もう一度、有田から和歌山に熱狂を生み出したい。和歌山のチームが、大阪や東京のチームに勝利し、和歌山・有田に誇りを持てるような地域づくりをサッカーを通じて行ってまいります。

今後とも、応援・ご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

閉会・点鐘

〔木本会長〕



御坊南ロータリークラブ50周年記念式典
2025年11月23日（日）



木本会長が出席されました。
50周年おめでとうございます。



よいことの
ために
手を取りあおう

